



I B Aの2年間で学んだこと

2007年度卒業(経営戦略専攻) 落合 研次

小学校から高校まで、朝礼や卒業式など様々なケースで“校長先生のお話”なるものがあった。きっといくつもありがたい話をして下さっていたのかもしれないが、今となっては殆ど記憶に無い。しかし、1つだけ鮮明に覚えているのが、高校の文化祭の開祭式での「守・破・離」の話。武道の習得のプロセスは、師の教えを徹底的に守り、完全になったらそれを破ってみる。そして、最後は自分の型を作って、師から離れていく。一流になるにはそれが一番の近道である。このプロセスは、勉強にもスポーツにも、すべてに通じる。そんな話だった。ビジネススクールで学べるのは、まさにこのファーストステップだろう。学んだばかりのシンプルなフレームワークがすぐ通用するほど、現実には甘くないし、ビジネスは単純ではない(と、思う)。



私は、生物化学を専攻して修士課程を修了し、現在の勤務先である情報システム企業に入社した。以来、6年目の現在まで顧客製薬企業の研究所の情報化に関するいくつかのプロジェクトに参加してきた。社会人4年目の春に入学したI B Aでは、私が日々の仕事の中で足りないと感じていたビジネスに対する幅広い知識(型)を吸収することができた。授業は、戦略・組織・マーケティング・ファイナンスなどをバランスよく選択することを心がけた(I B Aの一番のウリはバランスのよさだろう)。批判的に見る目を養うというよりも、徹底的に定石を詰込んだ。そして、仕上げの“考える”段階として、「技術それ自体ではなく、企業経営にどう技術を使うか」というM O Tの観点から、データマイニングを手法として課題研究を進めている。また、I B Aでの生活を通じて様々な業界の人と机を並べ、飲みに行く機会を持つことができた。これは、I Tと製薬業界の人間としかビジネスをしてこなかった私にはとても新鮮で楽しかった。刺激もたくさんもらった。

さて、一番大事なのは、卒業後になにをするか(できるか)、だ。I B Aで学んだことを如何に破って離れていくか。それが今後の課題だと思う。



視野が広がる一

2007年度卒業(経営戦略専攻) 岡村 英恵

「視野が広がった」

これが、私がI B Aで得た最大の収穫です。

さまざまな分野を、いろいろな角度から勉強させて頂きました。

卒業を控えた今、物事を判断する際に大局的な視点から判断できるようになったと感じています。

I B Aで得られたものは、最新の理論から最新の現場の状況まで広範囲に及びます。これらは経営者やビジネスマンとして必須のことでありながら、体系的に学べる場はあまりないと思います。それができるのがI B Aなのだと思います。印象に残る授業は数え切れません。

課題研究では大内准教授のゼミで、『労働コンプライアンス経営の導入』をテーマに取り組みましたが、自分自身の業務で抱える問題をテーマに掘り下げていくことができたので、頭の整理ができましたし、仕事上も有益なものとなりました。課題研究を通じて、本当にいろいろな方に協力やアドバイスを頂き、助けられました。人とのつながりのありがたさが身にしみた貴重な経験になったと思っています。仕事をしながら勉強するのはバランスをとるのが難しかったです。どちらに偏っても問題が発生します。

私は大阪で社会保険労務士事務所を開業しておりますが、この2年間は仕事と学業を両立させたものの、新たな仕事を受けないようにするなど、仕事を少しセーブした面もあります。しかし卒業すれば仕事に全力投球できる環境に戻れるわけですから、今後は、I B Aで培った力を活かして、より高度な専門性を持った「いい仕事」をしたいと思い、またそれを楽しみにしています。

大変な思いをした2年間でしたが、成長を実感できる喜びは何ものにも代えがたいものだと思います。大変さ以上に有意義な2年間でした。

熱心にご指導くださった教員の方々、色々な気づきを与えてくれた学友、入学を迷っていたときに背中を押してくれた先輩に感謝しています。

